

# インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトについて

---

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課  
岩井 聖

## 公的施設・インフラの公開・開放 「明日の日本を支える観光ビジョン」 (総理議長, 平成28年3月)

### ■ 魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放

- ・ 赤坂や京都の迎賓館に加え、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設を一般向けに公開・開放
- ・ 地域振興に資する観光を通じたインフラの活用

地域の観光資源のひとつとして、施設の見せ方や広報を工夫し、地域と連携して観光客を呼び込み、インフラツーリズムを地域活性化につなげる

1. モデル地区での社会実験の実施
2. 国内外に向けた魅力ある広報を展開
3. 訪日外国人旅行客のニーズを把握したインバウンド対応

## インフラ施設と地域との連携（イメージ）

地域の観光資源



地域のおみやげ



人気の自然スポット



温泉地での宿泊



インフラ施設の観光資源化



構造を活用したコンサート



地元観光ガイドの育成・活用

# インフラツーリズムモデル地区 ※過年度の地区含む



ぬくい  
**温井ダム** R6.4~



だいげんたがわ  
**大源太川第1号砂防堰堤**  
R5.8~R7.3

はくちょう  
**白鳥大橋**  
R2.8~R5.3



びえいがわ  
**美瑛川ブロック堰堤と  
十勝岳火山砂防情報センター**  
R5.8~R7.3



くるしまかいきょう  
**来島海峡大橋**  
R1.7~R5.3

つるだ  
**鶴田ダム**  
R1.7~R6.3



しんくさか がわ  
**新日下川放水路**  
R2.8~R6.3



かめのせ  
**亀の瀬地すべり対策**  
R5.8~R7.3



あまがせ  
**天ヶ瀬ダム**  
R1.7~R6.3



しんじゆく  
**バスタ新宿** R6.4~



なるこ  
**鳴子ダム**  
R1.7~R5.3



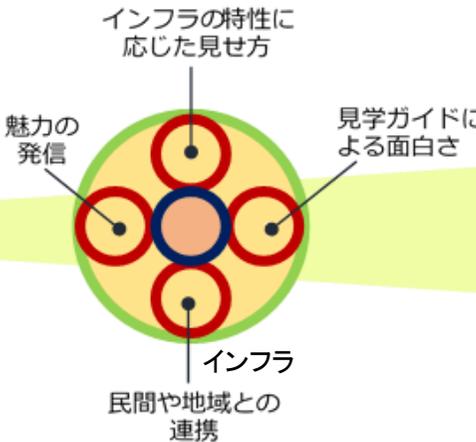
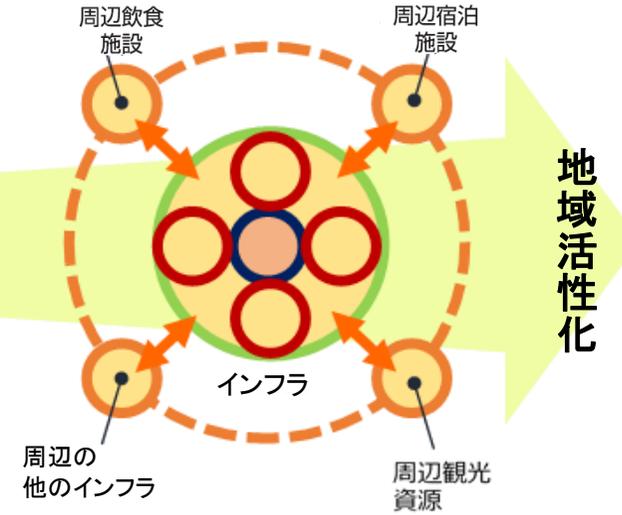
やんば  
**ハツ場ダム**  
R1.7~R5.3



しゆとけんがいかく  
**首都圏外郭放水路** R6.4~



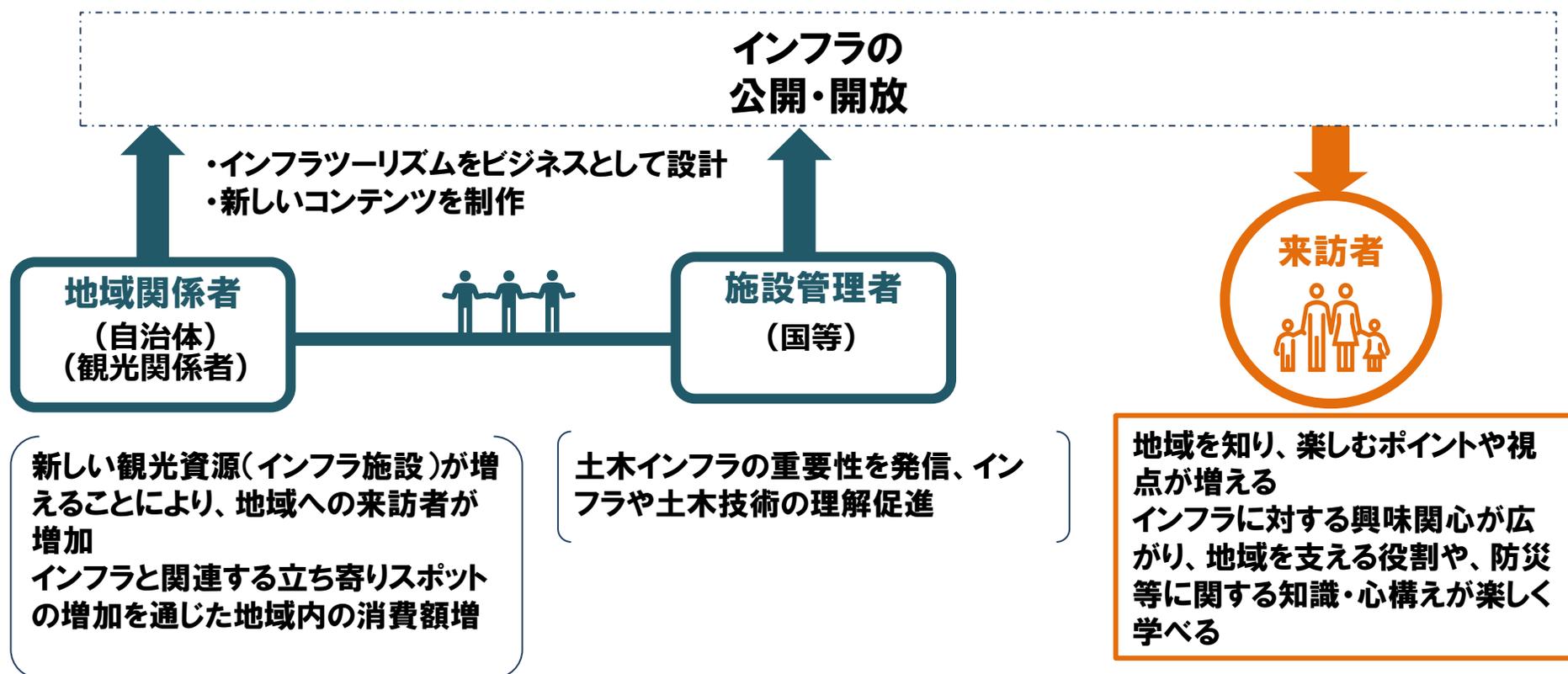
「土木広報としてのインフラの見学会」 に付加価値をつけて  
 「人を呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」、地域の方々と連携して  
 「周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し」、地域活性化を進めていく。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
 <p>土木施設の役割や必要性を学ぶ見学</p> <p>インフラ</p>	 <p>インフラの特性に応じた見せ方</p> <p>魅力の発信</p> <p>見学ガイドによる面白さ</p> <p>インフラ</p> <p>民間や地域との連携</p>	 <p>周辺飲食施設</p> <p>周辺宿泊施設</p> <p>周辺の他のインフラ</p> <p>インフラ</p> <p>周辺観光資源</p> <p>地域活性化</p>
<p>土木広報としてインフラの見学会を実施している段階</p>	<p>インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階</p>	<p>インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階</p>



有識者懇談会での議論や「魅力倍増プロジェクト」によるモデル地区の実践を通して得た知見等を踏まえ、インフラツーリズムの拡大に向けて必要な取組項目やその工夫点等を取りまとめ

※読者の想定: インフラ管理者／自治体(観光部局・インフラ部局)／地域の観光関係者



## インフラツーリズムの拡大に向けた8つのポイント

基礎的な取組み

発展的な取組み

<p>➤ 戦略の策定</p>	<p><input type="checkbox"/> 現状の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の観光資源を把握している</li> <li>施設の来訪者数や年齢等の属性を把握している</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 事業目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実現したい定性目標や数値目標が設定されている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 事業スケジュールの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業目標の実現に向けて、必要な事業展開の方向性とスケジュールが定まっている</li> </ul>
<p>➤ 体制構築</p>	<p><input type="checkbox"/> 会構体の組成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係者と合意形成を図れる会議体がある</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 業務分掌の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業主体と事業関係者との役割分掌がなされ、責任の所在が明確化している</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 適切な要員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各組織が担当する業務において適切な要員が確保されている</li> </ul>
<p>➤ 情報発信・プロモーション</p>	<p><input type="checkbox"/> 情報発信可能な媒体を有する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組主体が施設の情報やアクセス等の基礎情報の発信が可能なウェブサイトやSNS等の媒体がある</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 情報鮮度を保つ工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な情報の発信や更新が高頻度でなされている状態且つ、それを行う要員が確保されている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 双方向性のある情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、来訪者と施設管理者がSNSを通して対話できる等、ウェブを通じてコミュニケーションが取れる状態</li> </ul>
<p>➤ 受け入れ環境の整備(ハード)</p>	<p><input type="checkbox"/> 最低限必要な施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策上必要な柵の設置や貸出用の備品、駐車場等が整備・用意されている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> コンテンツの魅力最大化するハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提供コンテンツに合わせて来訪者の満足度向上と安全対策が両立する整備がされている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 来訪者の特性に合わせたハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多言語の案内板やバリアフリー対応等の整備</li> </ul>
<p>➤ 受け入れ環境の整備(ソフト)</p>	<p><input type="checkbox"/> 予約受付体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の見学会の申込みに際して、予約管理可能な体制やウェブサイトが構築されている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 決済ツールの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者目線で、現金決済以外の決済ツールの整備を行える状態</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> コーディネート機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の観光目的やニーズに合わせて、コンテンツのコーディネートができる状態</li> </ul>
<p>➤ ガイドの整備</p>	<p><input type="checkbox"/> ガイドの役割の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見学会等において管理事務所の職員以外がガイドを行う際に、外部のガイドが担う役割が明確化している</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> ガイド体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見学会の運営に際し、地域のガイド協会等との連携が回られている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> ガイドのクオリティ管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当するガイドによって差が生まれないよう、案内内容の統一化等が回られている</li> </ul>
<p>➤ コンテンツ造成</p>	<p><input type="checkbox"/> 基礎情報のタリフ化<sup>※1</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最少催行人員<sup>※2</sup>や料金等のコンテンツの基礎情報が一元的にまとまっている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 多目的・多機能化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の多様なニーズに対応できるよう、コンテンツのバリエーションが豊富にある状態</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の満足度が向上するため、コンテンツの磨き上げが回られている</li> </ul>
<p>➤ 販路構築</p>	<p><input type="checkbox"/> 販売チャネルの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DMO<sup>※3</sup>や旅行会社、OTA<sup>※4</sup>等の様々な販売窓口に対して商品を提供し、販売いただける状態になっている</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 適切な在庫管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品の販売に際し商品在庫を一元的に管理可能な体制やシステムを有している</li> </ul>	<p><input type="checkbox"/> 販売価格の管理・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な窓口を通して商品の販売を行うにあたり、価格の管理を行えている状態</li> </ul>

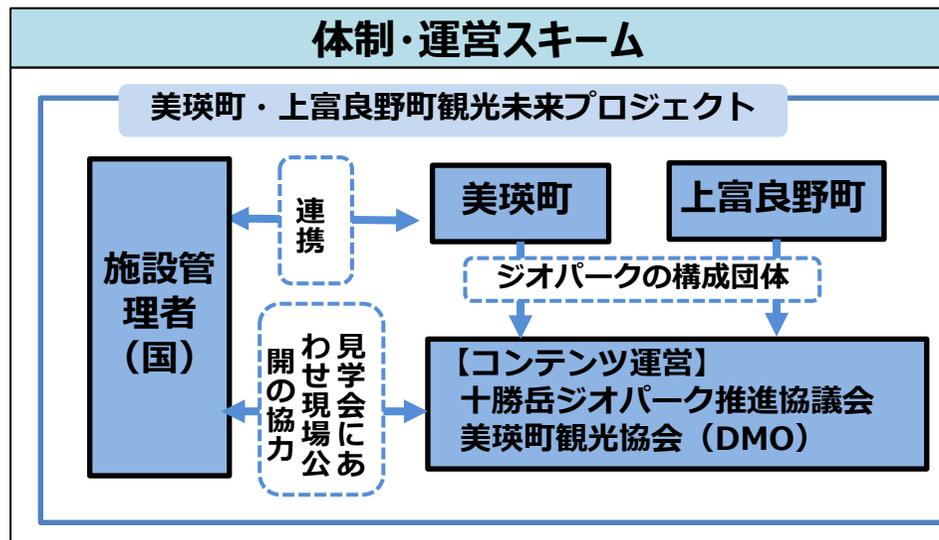
# モデル地区の取組状況(青い池と十勝岳火山砂防情報センター)

## モデル地区の具体的な取組

<p>① 戦略策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山防災を伝えるために、<b>十勝岳ジオパークと連携したインフラ・ジオツーリズムの概念の提唱</b>とコンテンツ開発</li> <li>オーバーツーリズム、通過型観光という地域の課題に、滞在時間を延長し地域の消費拡大につなげる取り組み</li> <li>十勝岳火山砂防情報センターの改修により、防災を伝える展示と地域の観光拠点としての活用のための検討</li> </ul>
<p>② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十勝岳ジオパーク推進協議会を核に、北海道開発局、美瑛町、上富良野町等による『<b>美瑛町・上富良野町観光未来プロジェクト</b>』を発足し、<b>運営体制・受入体制を構築</b></li> </ul>
<p>③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>インフラ・ジオツーリズムで伝える火山防災と地域をつなぐストーリー整理</b></li> <li>ストーリーにあわせたツアールートを検討し、ガイドシナリオを整理</li> <li><b>十勝岳火山砂防情報センターを、火山防災を含むインフラ・ジオツーリズムのストーリーをお伝えする施設として活用できるように改修</b></li> </ul>
<p>④ 対外的な発信 情報発信/販路構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十勝岳ジオパーク推進協議会、美瑛町観光協会のHPによる広報・受付を開始</li> </ul>



有識者の助言のもと、コンテンツを検討



## 地域の狙い

○地域消費額の増加へ  
オーバーツーリズム・通過型観光という地域の課題に、コンテンツにより、滞在時間を延長し地域の消費拡大につなげたい



## 有料コンテンツの造成

○周辺観光資源との連携  
インフラ施設の特徴を踏まえると、施設単独よりも周辺観光資源との連携が重要。地域ストーリーのあるコンテンツについて検討



## 対応するための取組

○地域の既存の取組と連携し面的なコンテンツ造成  
**十勝岳ジオパークと連携し**、十勝岳の火山の恵みとその裏側にある自然災害を防ぐインフラを伝える「**インフラ・ジオツーリズム**」を提唱。ジオパーク協議会や美瑛町観光協会からコンテンツを提供(令和7年6月開始、6月～9月)

○展示施設をレベルアップ  
インフラツーリズムの取組みをきっかけに**十勝岳火山砂防情報センターの展示**を通じて、火山防災を観光視点で楽しく伝えることができる施設に！

国土交通省インフラツーリズム魅力増進プロジェクト 公共インフラを活用した新たな観光資源へ  
新しい日本の観光提言  
北海道美瑛・上富良野観光未来プロジェクト  
日本初!! インフラ・ジオツーリズム  
北海道の屋根『十勝岳ものがたり』  
息を呑むような十勝岳の美しい自然の景観と、その裏側にある、地獄による大規模な噴火で山崩れや土石流を  
防ぐ役割があるインフラ施設の魅力を楽しく学べる、新しいインフラ・ジオツーリズムツアーをお楽しみください!



迫力とストーリー性のある展示への改良  
(デジタルコンテンツも導入)

# モデル地区の取組状況 青い池と十勝岳火山砂防情報センター

## 【ポイント】

- 日本初となる「インフラ・ジオツアー」のガイド付きツアーが6月からスタート
- 滞在時間の延長による稼ぐ観光に貢献
- 地域の美しい景観の背景と地域を守る火山砂防施設群の重要性を間近で見る巨大な砂防施設や十勝 岳火山砂防情報センターのわかり易い展示を通じて楽しく学習

## ★私たちが提唱する新たな「インフラ・ジオツーリズム」とは？

美瑛・上富良野両町が、国土交通省北海道開発局との共創により作り上げた、北海道の屋根「十勝岳ものがたり」のツアーは、「日本初のインフラ・ジオツーリズム」として誕生しました。災害は忘れた頃に必ずやって来ます。激甚災害が多い日本は「地震」、「津波」、「噴火」、「洪水」、「土砂崩れ」などが多く発生しますが、それは「生きている地球の証」でもあります。美瑛・上富良野地域の美しい景観は、数百万年にわたる地球の壮大な火山活動と、火山の脅威や恵みと共存する地域の人々の叡智との奇跡のコラボレーションにより形作られています。このツアーでは、美しい景観の「観光」を通じて、火山と共に生きる地域への理解を深め、噴火による大規模災害に備えるインフラ防災に触れることで、自らの命を守る災害への備えを楽しく学びます。



## 上富良野コース 泥流と砂防の物語 想定時間：3時間

集合・解散	十勝岳温泉駐車場
時間	9:00-12:00 または 13:00-16:00
料金	10,000円(大人おひとり様)
最少催行人員	2名様
期間	6月～9月

### モデル行程表

十勝岳温泉駐車場 集合	徒歩	1分
凌雲閣テラス	車	35分
上富良野町郷土館	車	30分
富良野川第2号透過型堰堤	車	30分
十勝岳温泉駐車場 解散		



## 美瑛コース 『青い水はどこから来たの!?』 想定時間：3時間

集合・解散	びえい白金温泉・白金観光センター
時間	9:00-12:00
料金	10,000円(大人おひとり様)
最少催行人員	2名様
期間	6月～9月



### モデル行程表



インフラ・ジオツアーならではの体験!! 『青い池の謎を調査!!』  
青く見える池の水は本当に青いのか!? 一般の方が入れない場所へ特別にご案内します。

●掲載されている写真はすべてイメージ画像となります。

# モデル地区の取組状況 亀の瀬地すべり対策工事

## 地域の狙い



○地域の面的な賑わいへ  
令和2年度以降、亀の瀬地区が日本遺産に認定され、地域関係者や地元住民が活発に活動しており、一層の地域への来訪者増加させ、広域な地域の面的な賑わいづくりを行いたい

## 事務所の狙い



○地域の思いに応えたい  
亀の瀬地すべりインフラツーリズムの実施により、来場者が増加している一方で、資料室の老朽化や、見学者の駐車スペース不足の課題、観光視点でより楽しく事業を説明したい



## 対応するための取組



### ○新たに魅力的な資料室を整備

資料室と展示物を有識者の助言も踏まえ更新。亀の瀬地すべりの歴史から対策工事、さらに流域治水まで楽しみながら分かりやすく伝えることが可能に

### ○地元住民によるガイド体制を構築

地元住民と連携し、これまで事務所職員が案内していた見学会を、地元住民によるガイド体制を構築

### ○地域関係者との連携体制を構築

地域関係者と賑わい創出のためのワークショップを重ね、地域とのインフラツーリズム連携体制を構築。新資料室内での地域商品の販売や、敷地内を活用したイベントの実施

# モデル地区の取組事例 白鳥大橋

- 白鳥大橋は、北海道室蘭市に位置する東日本最大の吊り橋
- 令和2年度に、インフラツーリズムモデル地区に選定
- モデル地区での検討により、通常開放されていない主塔の観光資源化に向けて、地域が主体となった体制の構築やガイドマニュアルの整備などを通じて主塔登頂クルーズツアーを造成し、現在は地域の会社によって販売



白鳥大橋



白鳥大橋



中間梁から見学



橋脚まで船でアプローチ

ツアーの例	内容	料金 (大人)
標準コース	白鳥大橋主塔の中間梁まで登頂。高さ100mから白鳥大橋を望める。	5,500円
標準コース+港内クルーズ	標準コースに加え、室蘭港内をクルーズする。	6,500円
TEPPENコース	白鳥大橋主塔の頂上まで登頂。360度の大パノラマを楽しめる。	9,000円

※催行人数は、通常のコースの場合、最小5名  
 ※運航期間 4月～11月